

# **蒲郡市 公共施設マネジメント事業について**

- 1. 蒲郡市の現状と課題**
- 2. これまでの取組み**
- 3. 今後の取組みについて**

## 蒲郡市の現状を把握しなければならない

### 公共施設白書(平成27年3月)

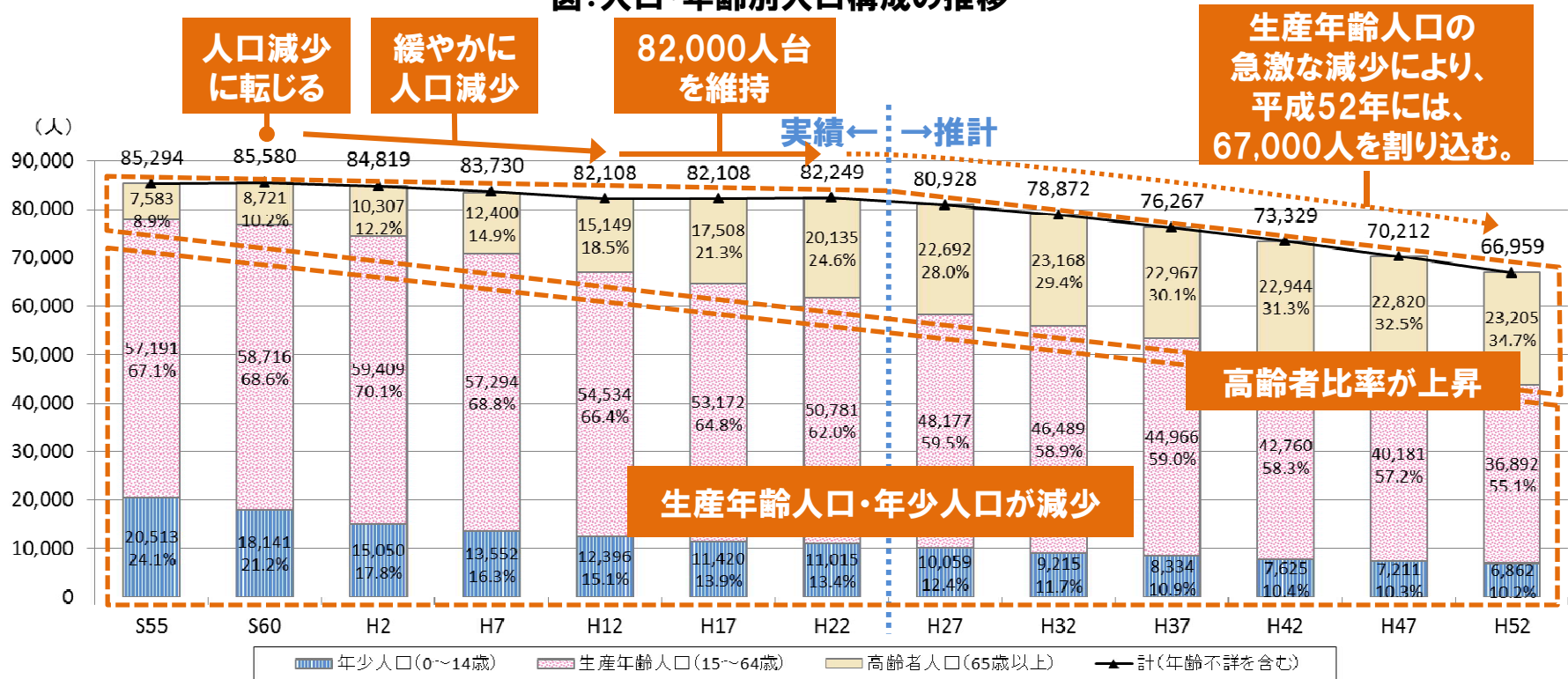
本日の説明に使用するデータは「蒲郡市公共施設白書」のデータを利用します。

# 1-2 蒲郡市の現状と課題

## ●人口推移の状況

- 人口は、昭和60年以降緩やかに減少を続けたものの、平成12年から10年間は82,000人台を維持しています。**将来人口は、平成52年に67,000人を割り込むまで減少**と見込まれています。
- 平成22年から平成52年の間に、生産年齢人口は50,781人(62.0%)から36,892人(55.1%)に減少し、これに伴う税収減などが見込まれます。一方で、高齢者人口は20,135人(24.6%)から23,205人(34.7%)と、特に高齢者比率が上昇しており、**より少ない生産年齢人口で高齢者を支える構造**となります。

図：人口・年齢別人口構成の推移



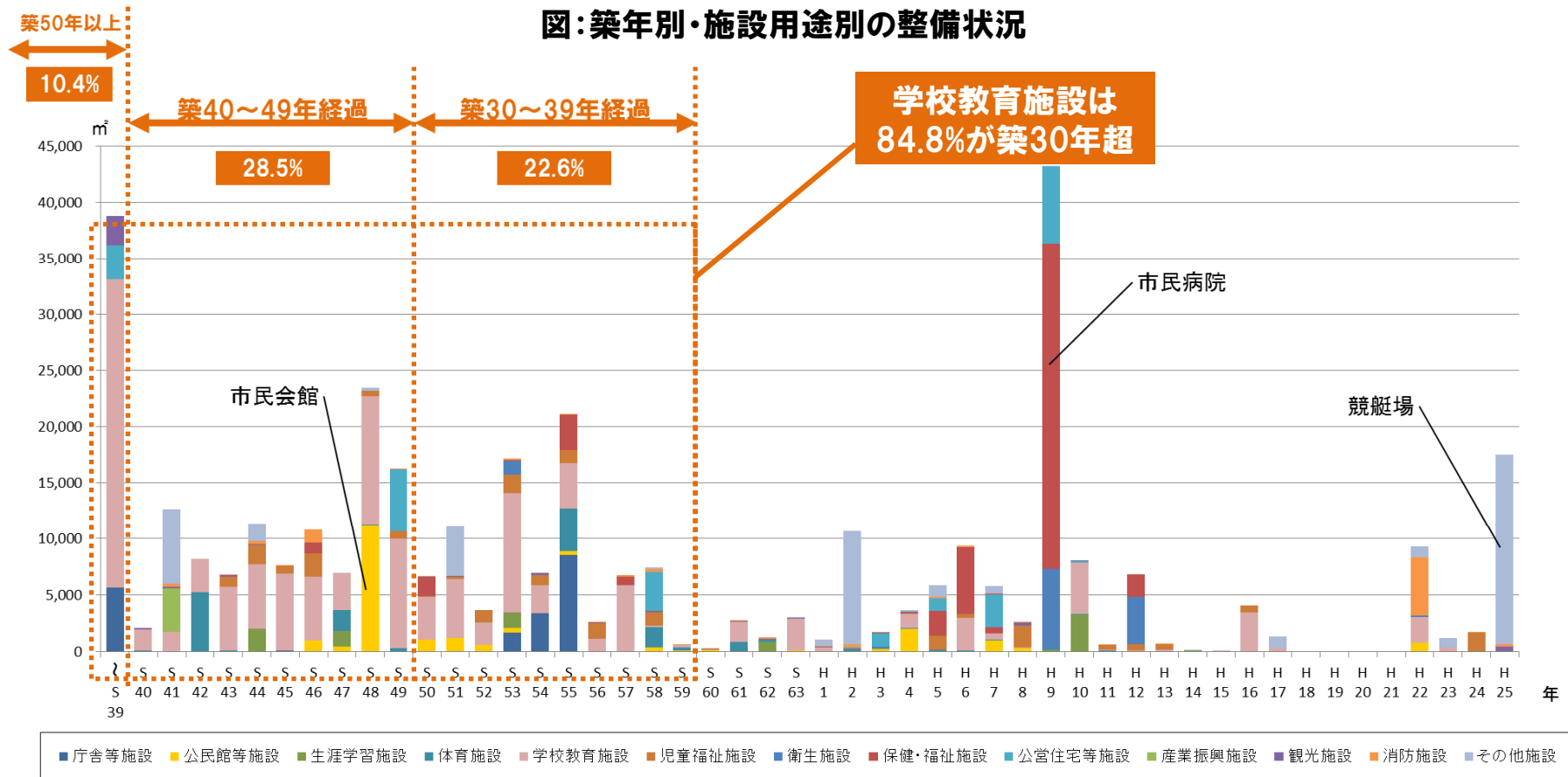
※実績値は、各年の国勢調査をもとに作成。

※推計値は、国立社会保障・人口問題研究所による推計値(平成22年国勢調査をもとに平成25年3月に公表)をもとに作成。

# 1-3 蒲郡市の現状と課題

## ●築年別整備状況

- 昭和39年までに建設された建物が10.4%、昭和40年代に建設された建物が28.5%、昭和50年代に建設された建物が22.6%を占め、**築30年を超える建物が多くなっています**。特に学校教育施設については84.8%が築30年を超えています。
- これらの築30年を超える建物は今後、老朽化による大規模修繕や建替えが必要となり、多くのコストがかかることが想定されます。



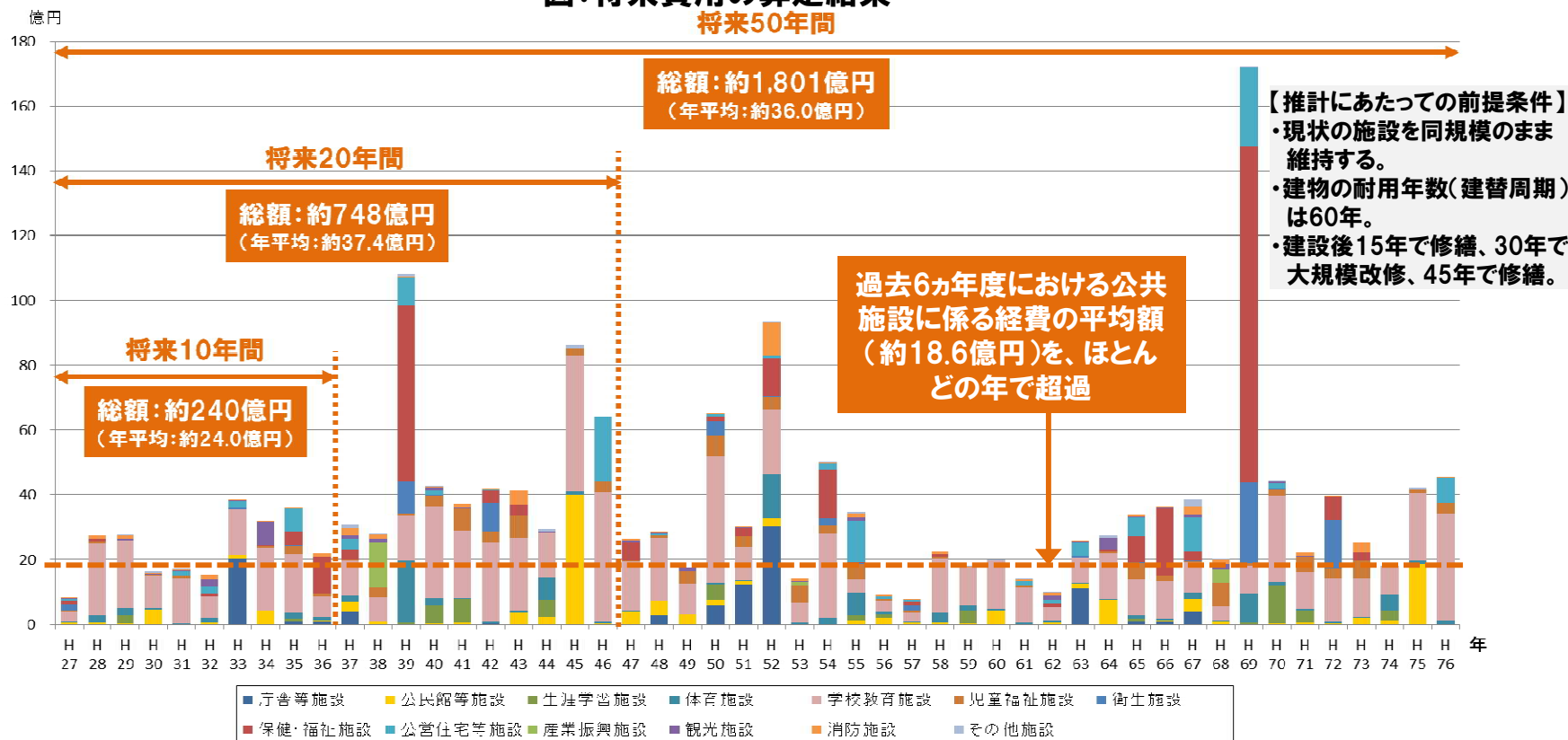
※蒲郡市公共施設一覧をもとに作成。

# 1-4 蒲郡市の現状と課題

## ●公共施設の維持・更新にかかる将来費用

- 公共施設の維持・更新にかかる費用は、将来10年間では総額約240億円(年平均約24.0億円)、将来20年間では約748億円(年平均約37.4億円)、将来50年間では総額約1,801億円(年平均約36.0億円)と推計されています。10~20年後の費用が特に高く、厳しい状況になります。
- 過去6ヵ年度における普通建設事業費等のうち、公共施設に係る経費は約18.6億円であり、大半の年で、**公共施設の維持・更新にかかる費用が現状の公共施設に係る経費を上回っています。**

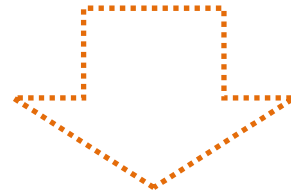
図: 将来費用の算定結果



※競艇場は、別会計にて修繕・改修を行っているため、推計対象から除外している。

## 白書から見える課題

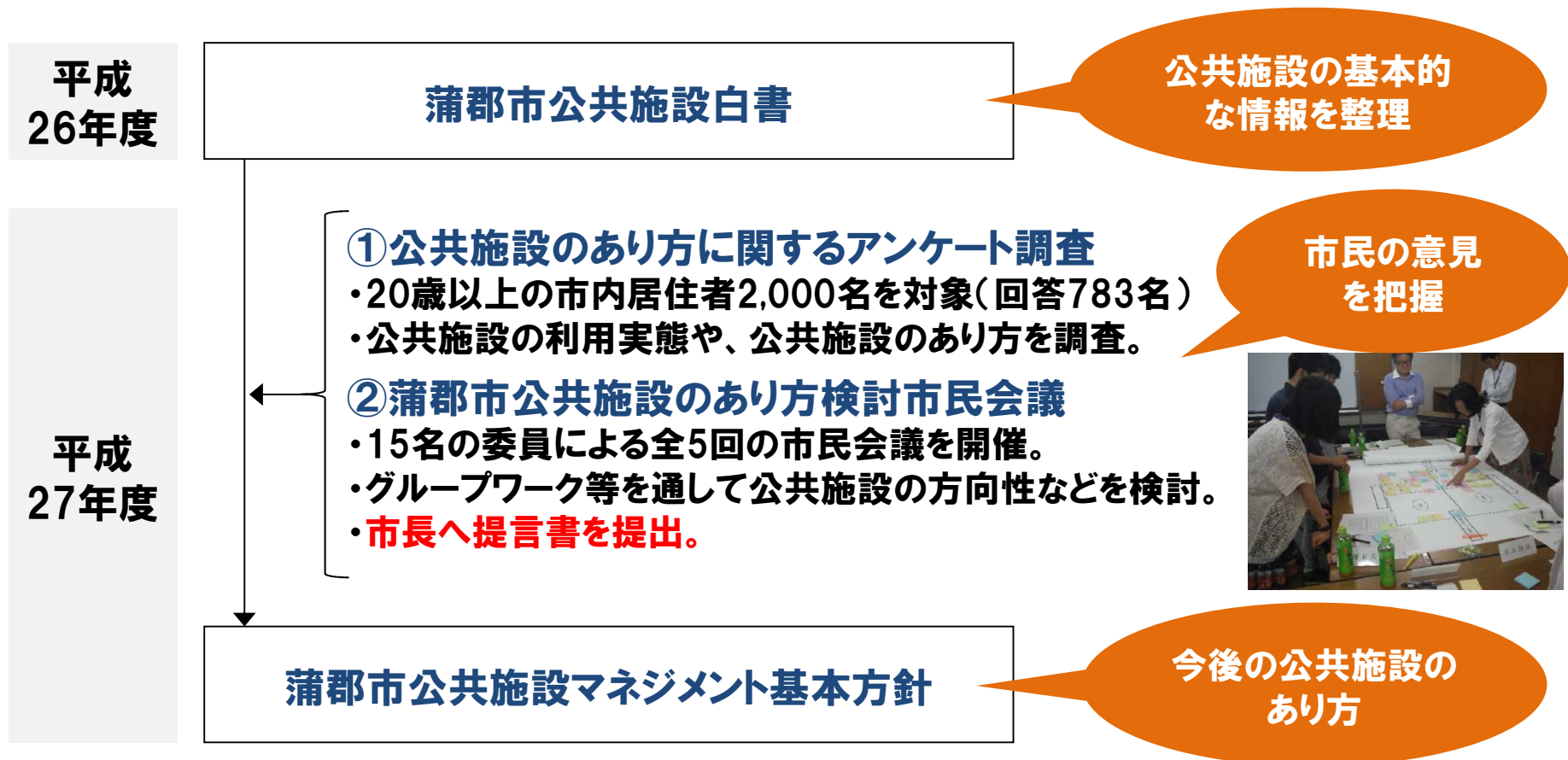
- 高度経済成長期に建設した建物を全て建替えることは不可能
- 人口減少や少子高齢化に計画的に対応しなければならない。



**計画的な取組みが必要**

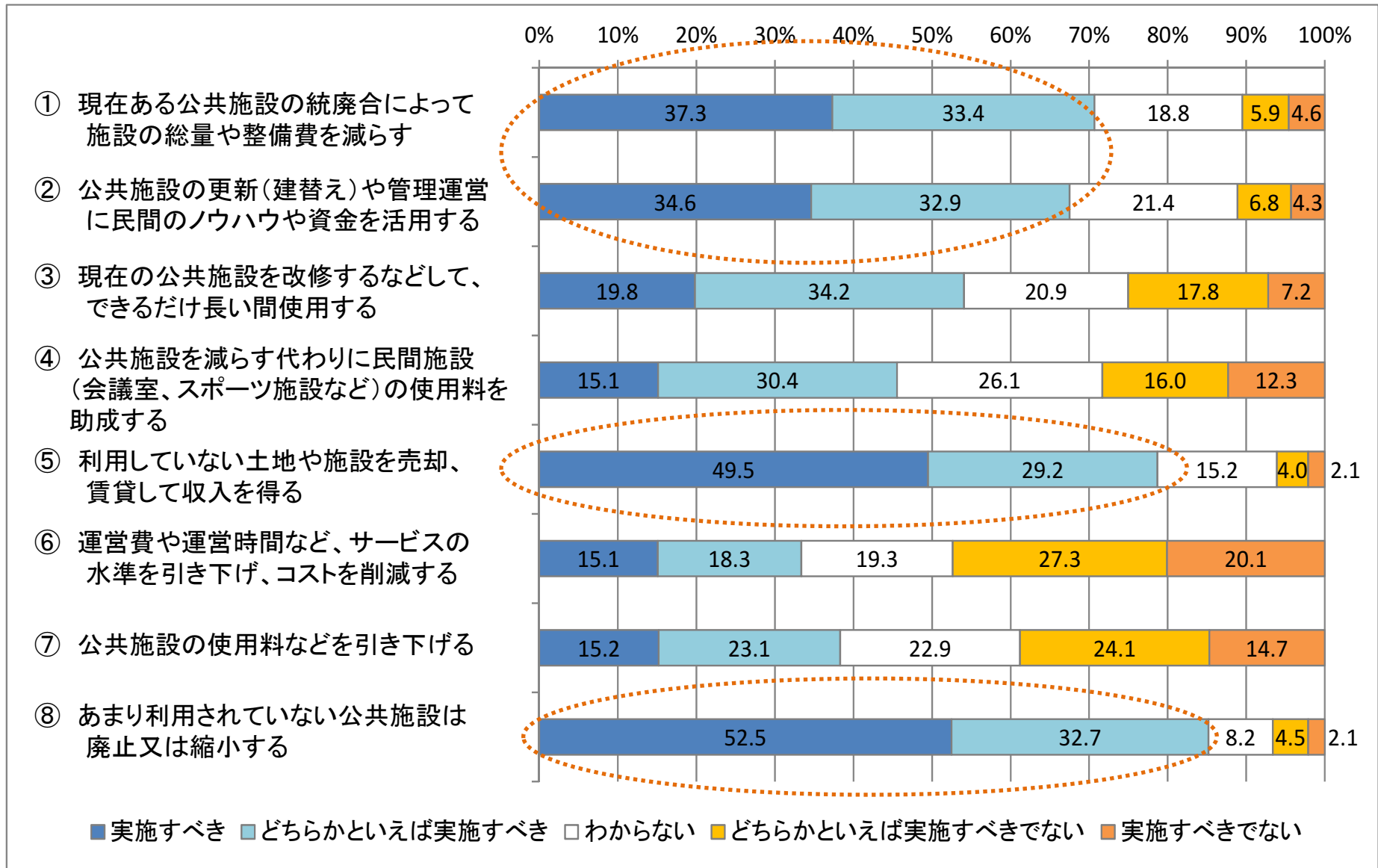
## 2-1 これまでの取り組み

- 平成26年度には「**蒲郡市公共施設白書**」を策定し、公共施設の老朽化状況やコスト・利用状況などの現状を把握しました。
- 平成27年度には、「**公共施設のあり方に関するアンケート調査**」ならびに「**蒲郡市公共施設のあり方検討市民会議**」を実施し、市民の皆様からの意見を踏まえた上で、「**蒲郡市公共施設マネジメント基本方針**」を策定しました。



## 2-2 これまでの取組み

## アンケート調査結果



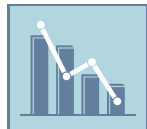


## 2-3 これまでの取り組み

## 市民会議から提出された提言書

- ①財政状況や社会情勢の変化を踏まえた「身の丈にあった」公共施設、②まちの魅力を高めるための公共施設、③公共施設マネジメントの推進方策の3つの観点から公共施設のあり方を提言。
- 具体的には、「複合化・統廃合による施設保有量の適正化・運営の効率化」、「施設規模の縮小」、「複合化による新たな効果の創出」、「市民との協働による推進」といった提言が出された。

### 観点①



#### 財政状況や社会情勢の変化を踏まえた 「身の丈にあった」公共施設



- 複合化・統廃合による施設保有量の適正化・運営の効率化
- 民間との協働促進によるコスト減
- 利用料金の適正化
- 施設の長寿命化、計画的な修繕・改修
- 施設規模の縮小
- 新たな建設投資の抑制
- 近隣自治体との連携
- 市民による負担者としての判断

### 観点②

#### まちの魅力を高めるための 公共施設



- 子どもや高齢者の居場所・交流づくりの推進
- まちの核となるエリアの魅力創出
- 複合化による新たな効果の創出
- 施設・地域の特性の把握
- 地域による主体的な運営
- 交通を踏まえた施設配置の検討(公共交通・自動車の利便性向上)
- ハードではなくソフトでのサービス提供
- 市民の「安全」「安心」を守る
- 公共施設の周知・認知度向上

### 観点③

#### 公共施設マネジメントの推進方策

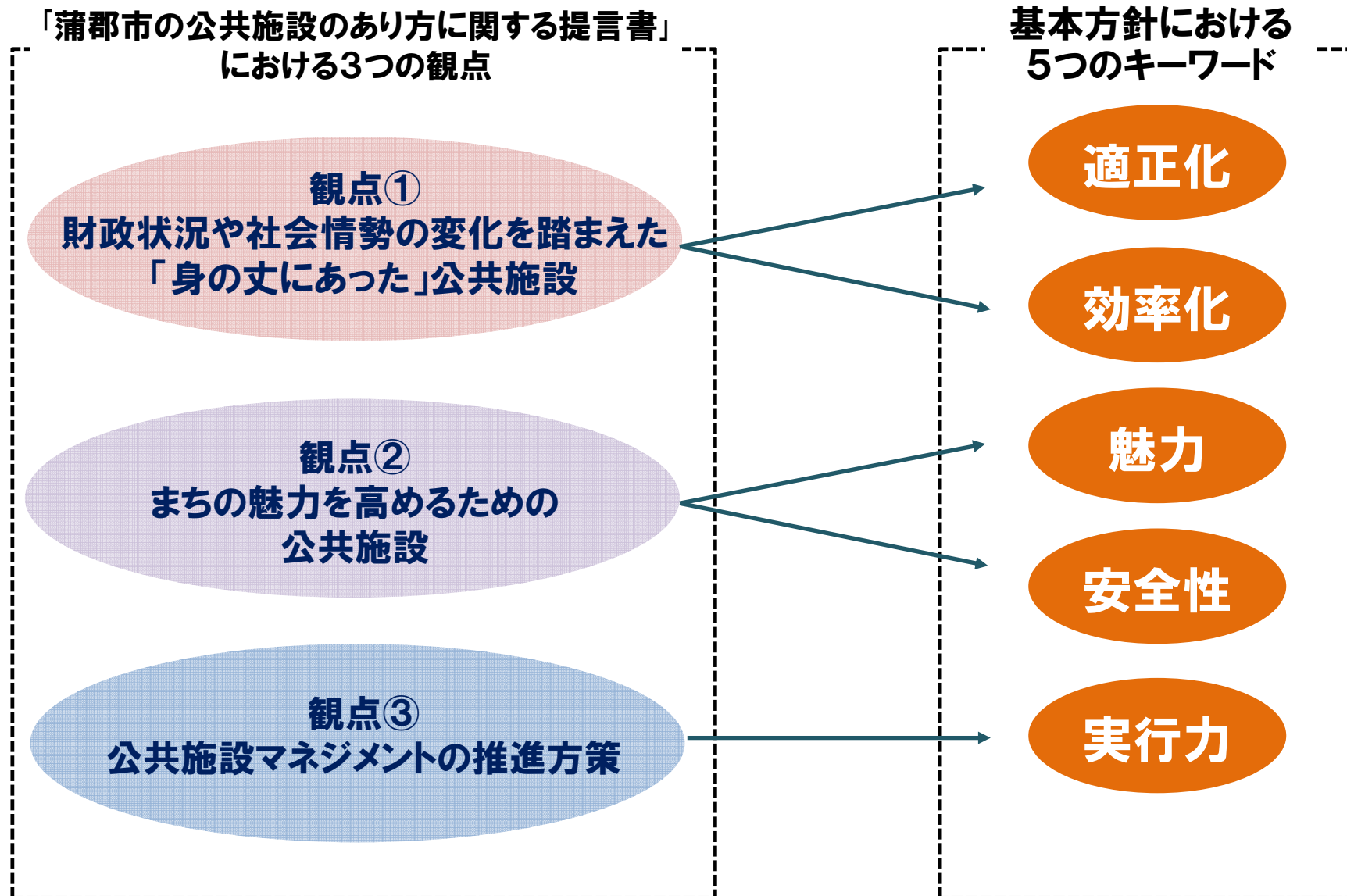


- 行政のやる気・スリム化・トップマネジメント
- 実効性のある計画策定・PDCAサイクルによる管理
- 庁内の横断的な取り組み
- 施設の役割・機能別のマネジメント
- 市民との協働による推進

## 2-4 これまでの取組み

## 蒲郡市公共施設マネジメント基本方針

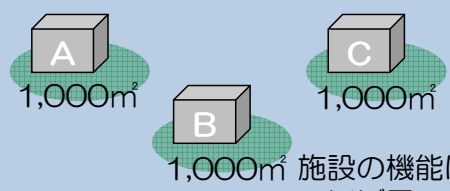
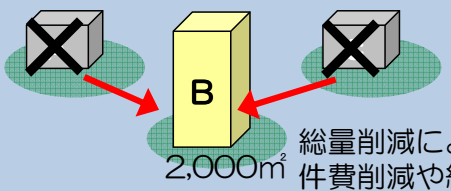
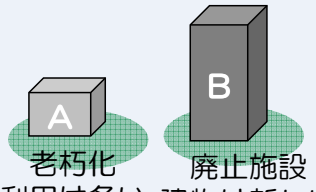
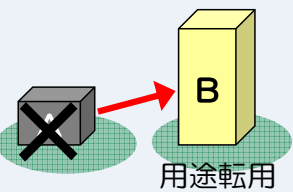
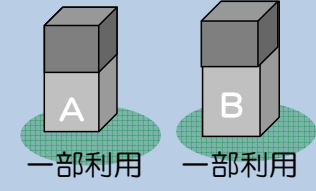
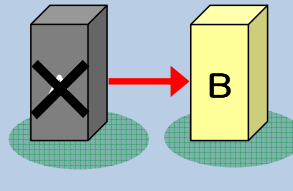
- 市民の意見も踏まえ、今後の公共施設整備にあたっての方針を整理したもの。
- 「適正化」「効率化」「魅力」「安全性」「実行力」の5つの基本方針を整理。



適正化

将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します

- 少子高齢化社会に対応した施設維持費の負担軽減が必要です。
- 大きく変化した社会状況と予想される将来を見据えた施設配置が求められます。
- 財政的負担を想定した維持できる施設規模にしていく必要があります。

手法の例	現状	実施後のイメージ
<p><b>手法①</b> 施設の集約による総量削減</p>	 <p>1,000m<sup>2</sup> 1,000m<sup>2</sup> 1,000m<sup>2</sup></p> <p>施設の機能は各施設でほぼ同一。</p>	 <p>2,000m<sup>2</sup></p> <p>総量削減により、人件費削減や維持管理の効率化を実現。</p>
<p><b>手法②</b> 遊休施設の用途転用による有効活用</p>	 <p>老朽化 廃止施設 利用は多い 建物は新しい</p> <p>建物は新しく利用可能な廃止施設が存在。</p>	 <p>用途転用</p> <p>B施設を用途転用し、A施設の機能を移す。 A施設の更新費用を削減。</p>
<p><b>手法③</b> 低利用施設の集約</p>	 <p>一部利用 一部利用</p> <p>部分的にしか利用していない施設が複数存在。</p>	 <p>両施設の用途をB施設に集約し、施設保有量を削減。</p>

## 効率化

## 効率的・効果的な維持管理を実施します

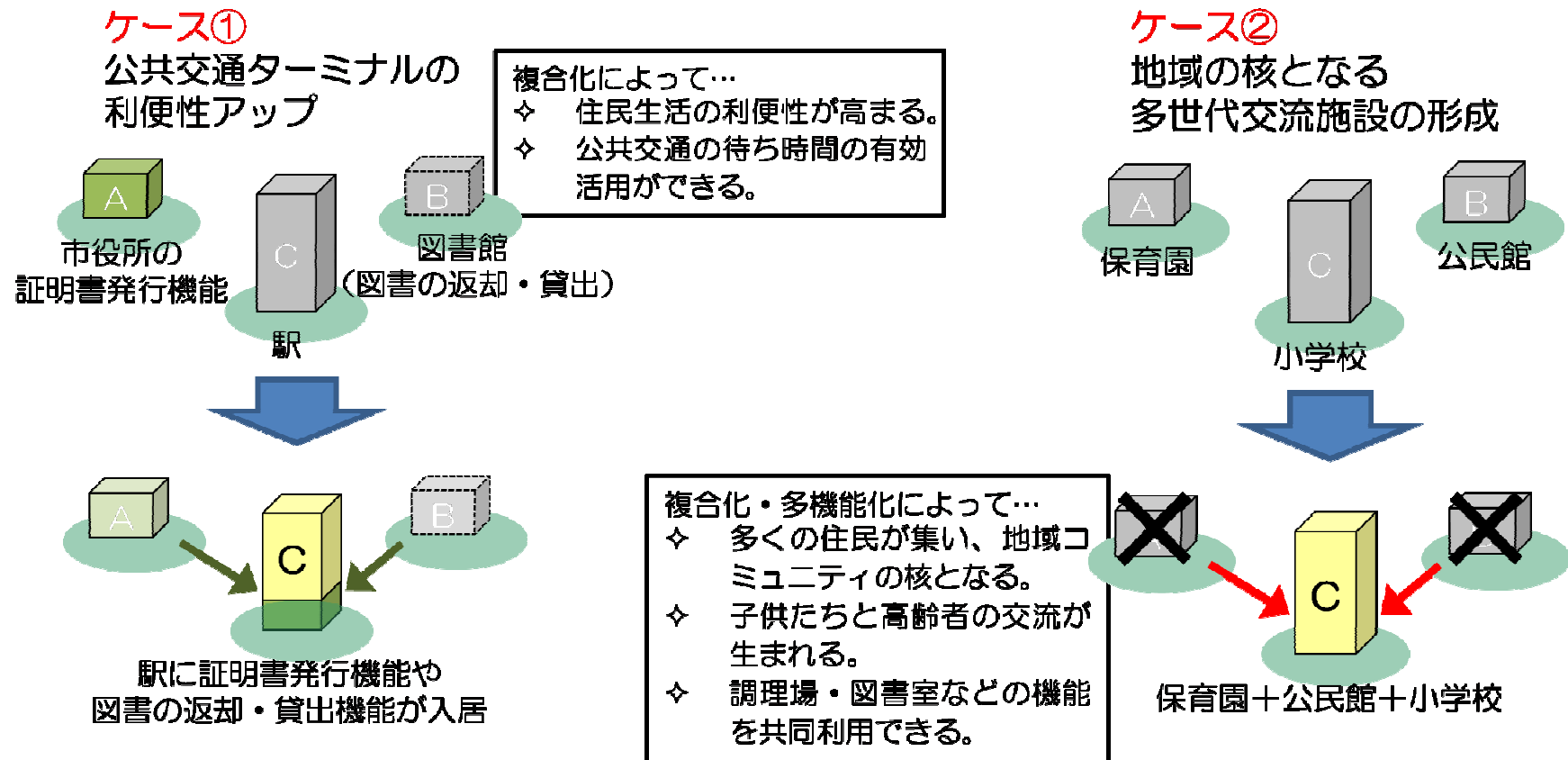
- 継続的に必要となる施設維持コストの圧縮が求められます。
- 従来の維持管理方法だけでなく、新たな方法を検討し効率的な施設管理を行います。

取組方策	具体的な内容
管理運営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 施設の維持管理費やサービスの提供にかかる事業運営費などについて、管理運営の方法を見直し、効率的な運営を行います。</li> <li>• 施設にかかる修繕や工事などについて、一元的な管理を行うことにより、費用対効果を考えた支出を行います。</li> </ul>
新たな事業手法の活用等による運営財源の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 建設投資にあたっては維持管理や事業運営における民間活用の可能性を検討します。</li> <li>• ネーミングライツの売却、広告スペースの販売など、新たな財源確保策を検討します。</li> </ul>
受益者負担適正化の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用者が負担する公共施設の利用料金のあり方を検証し、施設利用料金を見直します。</li> </ul>

魅力

社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します

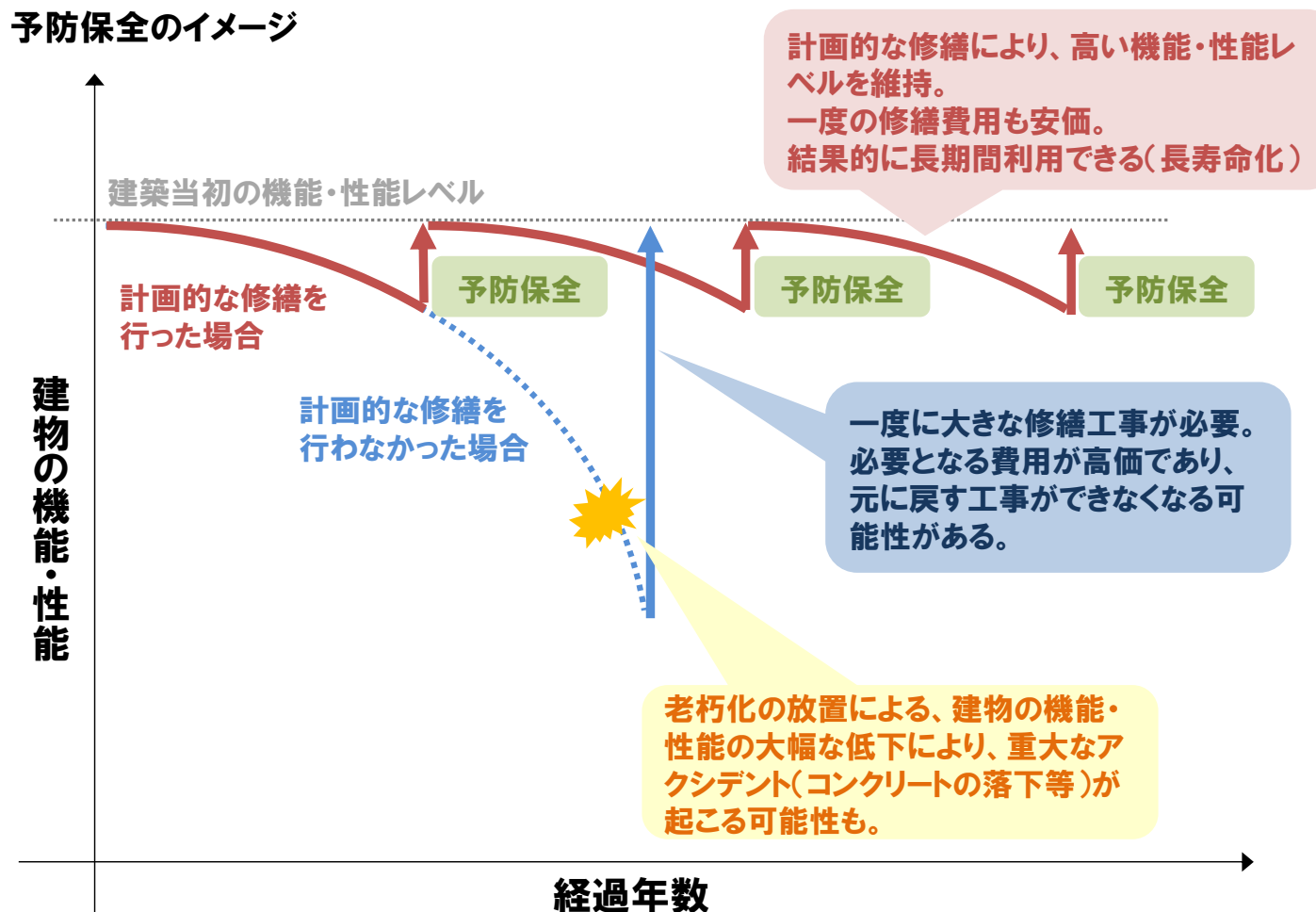
- 高齢化など社会変化に対応した市民ニーズを取り込むことで利便性を高めます。
- 複合化・多機能化を行い地域コミュニティの核となる施設配置をします。



安全性

計画的な保全により公共施設を安全に維持します

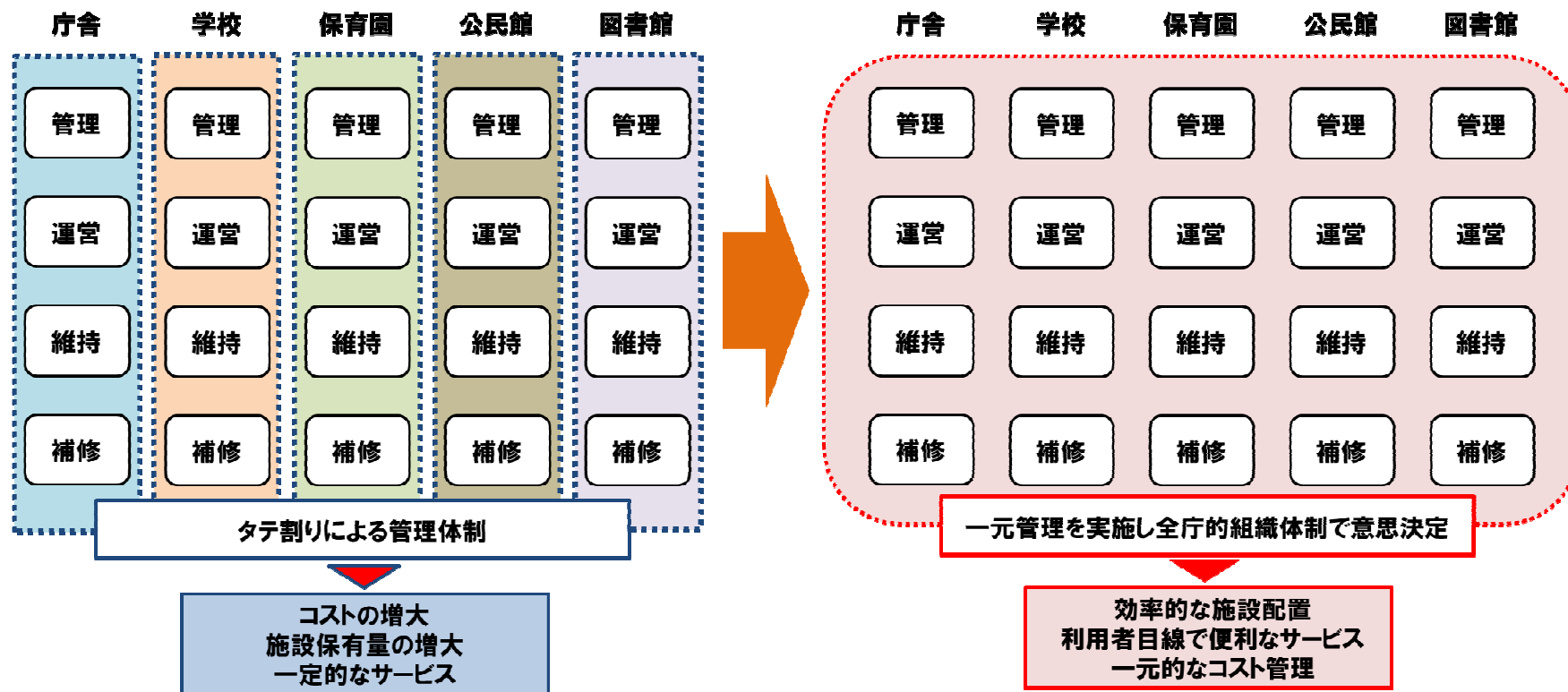
- 老朽化した施設の改修を計画的に行い、建物の安全を維持します。
- 予防保全を実施し、効率的、効果的な施設維持を行います。



実行力

公共施設の再編にむけて実行体制を構築します

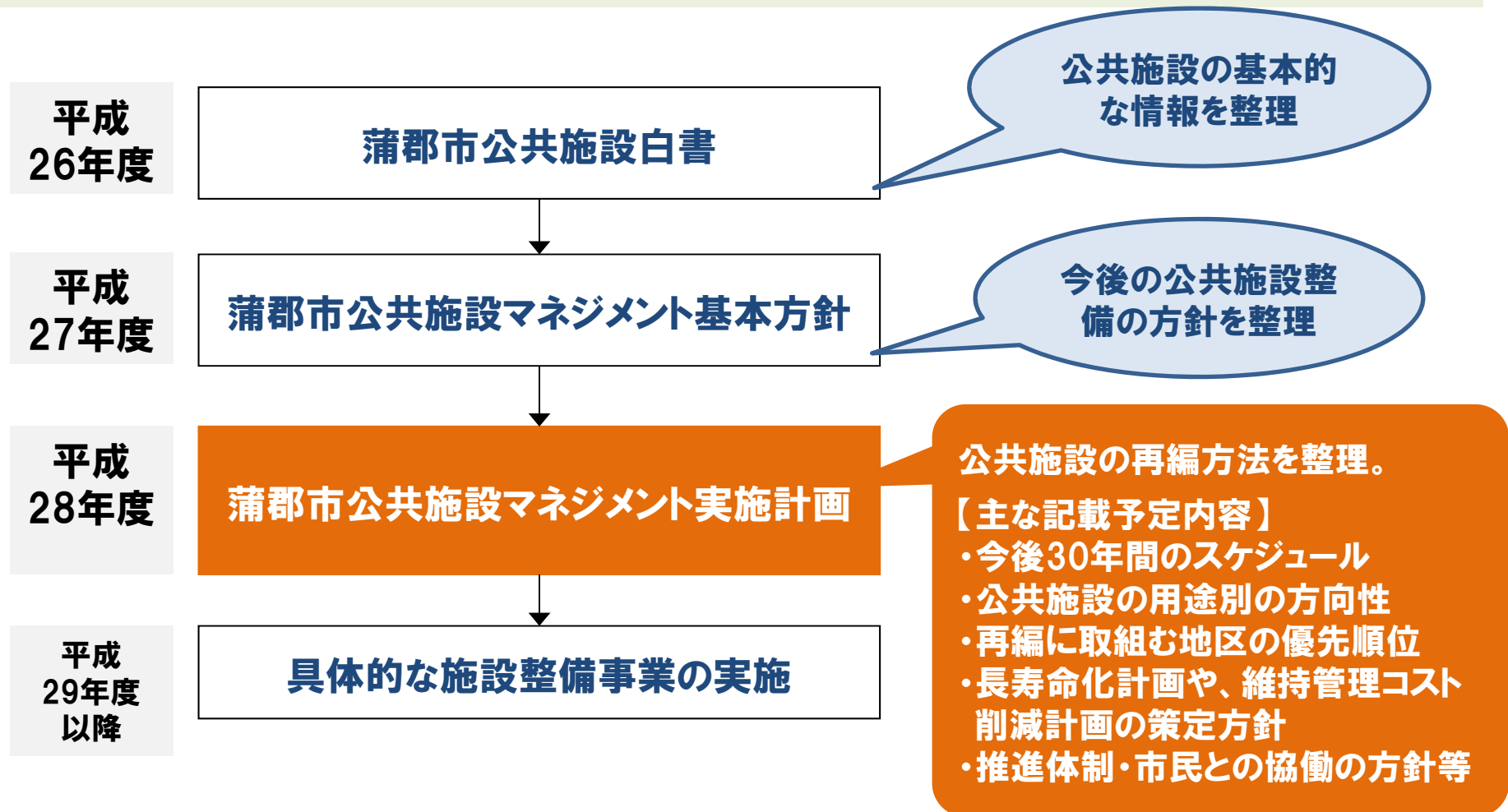
- 公共施設の再編は多くの所管課にわたった取り組みであり、情報の一元的な管理を進め、全庁的な観点で整合性を図りながら事業を実行します。
- 事業を適正に評価できる体制を整え、取り組みを進めていきます。



### 3-1 今後の取組み

## 蒲郡市公共施設マネジメント実施計画の位置づけ

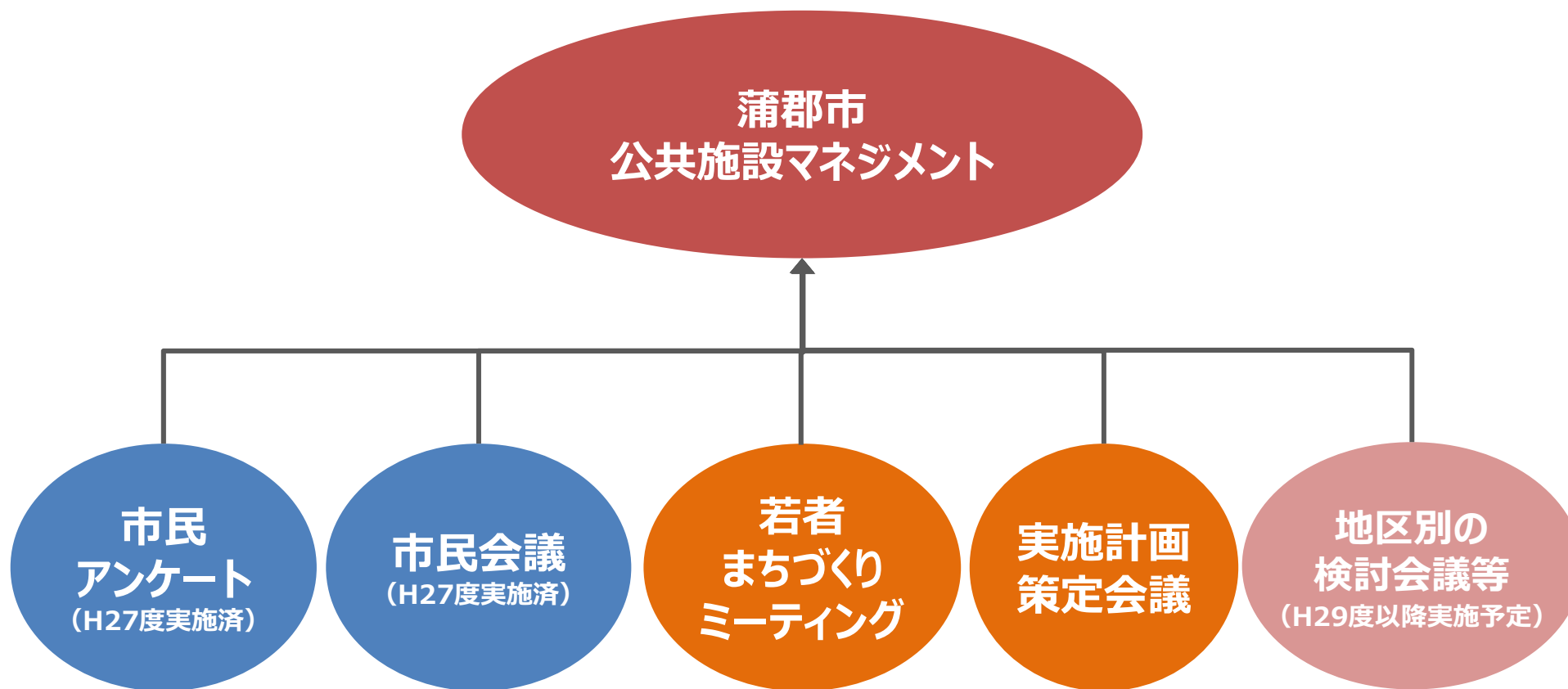
- これまでに策定した「蒲郡市公共施設白書」で整理した公共施設の基本的な情報、「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」で整理した今後の公共施設整備の方針に基づいて、「適正化」「効率化」しながら「魅力」を高めるための公共施設の再編方法を示すものです。





### 3-2 今後の取組み 若者まちづくりミーティング・実施計画策定会議の位置づけ

- 蒲郡市は、市民の皆様から様々な方法で意見を伺いながら、公共施設マネジメントを進めます。
- 今年度の若者まちづくりミーティング・実施計画策定会議は、その取組みの一部です。
- 来年度以降も、適宜地区別の検討会議等を行いながら、事業を進めます。



※本年度は別途、「蒲郡市公共施設マネジメントニュース」(チラシ)の配布等を通して、全市民の皆様にご経過を報告するとともに、意見を伺いながら進めます。

### 3-3 今後の取組み

## 若者まちづくりミーティング・実施計画策定会議の進め方

- 若者まちづくりミーティングの委員には、**将来を担っていく立場**から、公共施設の**今後の整備方法**の元となる意見を頂きたいと思います。
- 実施計画策定会議の委員には、**市民全体の視点**から**実施計画の素案**に対して意見を頂きたいと思います。

第1回会議  
(本日)

- 現状・課題の共有
- 取組プロセスの確認

全4回の  
若者まちづくり  
ミーティング  
8月～9月

- グループワークを中心にした議論  
(毎回異なる公共施設を利用して実施予定)

全3回の  
実施計画  
策定会議  
10月～12月

- 昨年度までに頂いた皆様の意見や若者まちづくりミーティングの意見を踏まえ、市が作成した素案に基づいて議論

蒲郡市での  
計画策定

- 頂いた意見を踏まえて、庁内で検討
- パブリックコメントを実施した上で公表。

これまでに策定した「**蒲郡市公共施設白書**」、「**蒲郡市公共施設マネジメント基本方針**」の内容が**前提**となりますので、これらに基づいた意見を頂きたいと思います。